

# 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市立乳児院		
管理者名	社会福祉法人愛宕福祉会	指定期間	平成27年4月1日 ~ 令和2年3月31日
担当課	こども未来部こども政策課		
所在地	新潟市中央区川岸町1丁目57番地1		
根拠法令	児童福祉法第37条		
設置条例	新潟市乳児院条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地面積 527.25㎡</li> <li>・延床面積 469.80㎡</li> <li>・構造・階高 木造 地上2階建</li> <li>・施設内容 養育室（共用ラウンジ、寝室、ほふくスペース、キッチン等）、 応接・相談室、診察室、調理室、事務室、親子生活訓練室等</li> <li>・定員 10名 ※平成30年度改定</li> </ul>		

施設設置目的	
<p>保護者の離婚や病気、養育困難、虐待されている乳児、その他不適切な環境により、家庭で育てることが困難な場合に、児童相談所の判断で乳児（保健上、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、幼児を含む。）お預かりし養育し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設。</p>	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p><b>基本理念</b> 社会的養護の理念と原理のもとに、乳幼児の心身及び社会性の健全な発達を促進し、その人格の形成に資する養育を行うとともに、児童相談所や児童福祉施設等の関係機関と密接な連携を図り、乳幼児に適切な支援を行うこと。</p>
2	<p><b>重点政策</b></p> <p>(1) 養育・支援 乳幼児の命を守り、その心身及び社会性の健全な発達を促進するため、家庭的な環境で一人ひとりの心に寄り添い、愛着関係を築き信頼関係を育むとともに、発達を支援する環境を整える。</p> <p>(2) 家庭・里親への支援 家庭復帰に向けた親子関係の再構築支援を行い、あるいは、里親への委託に向けた取組を行う。</p> <p>(3) 自立支援計画、記録 子ども一人一人の心身の状況や、生活状況等を正確に把握した、自立支援計画を策定する。</p> <p>(4) 関連機関連携、地域連携及び支援 市、児童相談所、里親会、医療機関及び他施設等の関係機関等との連携・協力体制を構築する。また、地域の里親支援、子育て支援等に取り組むなど、施設のソーシャルワーク機能を活用し、地域の拠点となる取組を行う。</p> <p>(5) 職員の質の向上 定期的に研修に取り組む等、職員一人ひとりの質を向上させ、施設全体の養育・支援の質を向上させる。</p>
2	<p><b>管理運営方針</b></p> <p>(1) 当該業務において善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置目的を踏まえて、施設の一体的な管理によりその効果を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、保護者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 保護者等や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	サービス満足度	里親研修受講者等へのアンケートを実施し、「満足」が80%以上	里親研修受講者23名にアンケートを実施した。100%が良い(満足)であった。	A	視察・研修受け入れ等のアンケートでは、施設環境及び職員対応につき高い評価を得た。
	苦情・要望への対応	原則7日以内に回答	苦情0件 保護者の要望に関しては、支援の一環として取り入れている。	A	苦情0件である点を評価する。
財 務	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	法人経理規定、経理マニュアルに基づき適切に管理した。	B	指標どおりであった
	管理経費の削減	管理経費削減計画に基づき削減に着手	水光熱費、食費について差異について検証した。こまめな節電を実施。また、物品購では費用の比較検討を実施し、職員同士でも情報交換をしながら、費用を抑えるよう努力した。	B	指標どおりであった
業 務	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	遵守した。	B	指標どおりであった
	安心・安全の確保	・避難訓練等の実施(月1回以上) ・業務マニュアルの見直し	避難訓練は、月1回以上実施。避難訓練、防犯訓練、救命訓練、連絡訓練等合わせて年間20回実施。 年度末にマニュアルの見直しを実施。	B	指標どおりであった
	個人情報保護の徹底	・施設内研修の実施(1人あたり年1回以上) ・業務マニュアルの見直し	SNSの取り扱い等も含め個人情報の研修を全員が受講(シフトでられない職員も資料を読むなどして全員に徹底)法人全体として取り組んだ。 個人情報に関するヒヤリハットの収集も行いリスクマネジメントの研修で注意喚起を促した。	B	指標どおりであった
	関係機関との連携等	会議等への積極的な参加(年12回以上)	新潟市・市児童相談所との定例会議、地域連携会議、担当者会議、自立支援計画会議、鏡淵地区との情報交換会等の関係機関との会議は、延べ31回実施した。	A	積極的に参加し、関係機関との連携強化に努めている。

	地域との交流	地域行事への参加等、地域との交流を6回以上実施	子育て支援センターちゅうりっぷぶを利用しての地域交流は述べ102人。 その他なかなかふるまち、いでらす、こども創造センター、市内体育施設や公共センターを利用して市内の子育て家庭と交流した。	A	積極的な交流を行い、子どもの健全育成につなげている。
	社会・地域への貢献	再委託する場合の市内事業者への再委託及び物品等の市内事業者からの調達率90%以上	95%	B	概ね指標どおりであった。
	里親支援の実施	里親研修の受け入れ年2回以上	養育里親研修23名(更新研修2名、登録前研修21名)を15日間で受け入れた。	A	多数の受け入れを行っている。
人 材	適正な人員配置	条例で定めた基準を上回る職員数の配置	1.3対1以上の配置を行い、10月以降は一時保護を含めて定員以上の受け入れに努めた。	A	高水準の職員配置を行っている。
	配置職員の資質向上	計画的な研修の実施年10回以上	施設内研修15日述べ180人 法人内研修は9日34人 施設外研修は33日41人が参加して乳児院職員としての資質向上に努めた。	A	研修を多数実施し、運営の質の向上に努めている。
	ボランティアとの連携	ボランティアの受け入れ人数年間延べ10人以上	ボランティアは年間延べ200人を受け入れた。	A	積極的な受け入れを行っている。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守している	B	適切に実施されている。

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

今年度は里親研修を年間23名受け入れた(昨年度は10名)。5年回の間、施設内外で研鑽を行い里親支援について取り組んできた。里親担当職員を配置するとともに、保育士、看護師、管理栄養士も連携し、里親も施設も社会的養育が必要な子どもをチームとして支援するという姿勢が里親研修の満足度100%につながったと感じる。

安心安全の取り組みで、平成27年度の受託時から「ヒヤリハットの収集と分析」による事故防止に努めてきた。今年度は、ヒヤリハットが1463枚あがり、5年間で最多となった。小さなヒヤリの収集と日々の気づきを収集し分析することで、未然に大きな事故を防ぐ風土は根付いたといえる。

経費節減としては、修繕等においては品質と価格の精査を行い業者の選定に時間をかけて、経費の節減をおこなった。水光熱費については9月、10月、11月、12月、1月、3月は昨年度を下回った。気温や部屋の使用頻度などにも関係すると思うが、今後も節減に努めていきたい。今年度は、定員を超えての子ども数だったため、食費は予算より多くなったが、収入も増えるため妥当な水準だった。備品係が、物品の管理をしており、値段、品質、在庫保有、発注などを行い、物品の減りが早い理由、安くても品質が悪い場合の検討などを実施してきた。

今年度は第三者評価の受審を実施。自己評価以上の評価をいただいた。施設運営の指針となる第三者評価基準や施設運営指針をベースにしながら施設運営を実施してきた。人材育成や業務負担軽減等まだまだ課題は多く残されており、養育の質の向上には終りはないので、これまで以上に次年度も運営、養育の質の向上に努めていきたいと思う。

所管課による総合評価(所見)

里親研修及び里親支援について充実してきている。また、従来より取り組んでいるヒヤリハット事例の分析・共有による安全管理や経費削減計画の実施、業務マニュアルの見直し、関連機関や地域との積極的な連携・交流など良好な運営が行われており、指定管理者として優良と評価する。